

そだちサポートプロジェクト 令和8年度 第2回 そだサポ研修&交流会

令和 8年 9月18日（金） 18：30 ～ 20：00

○ 参加事業所（事業所数）

奄美市（5）

にこびあ、のぞみ園、
ヒマワリクラブ、ヒマワリ就学塾
メロウキッズ

瀬戸内町（1）

ここ園

龍郷町（2）

愛かな、聖隷かがやき

与論町（1）

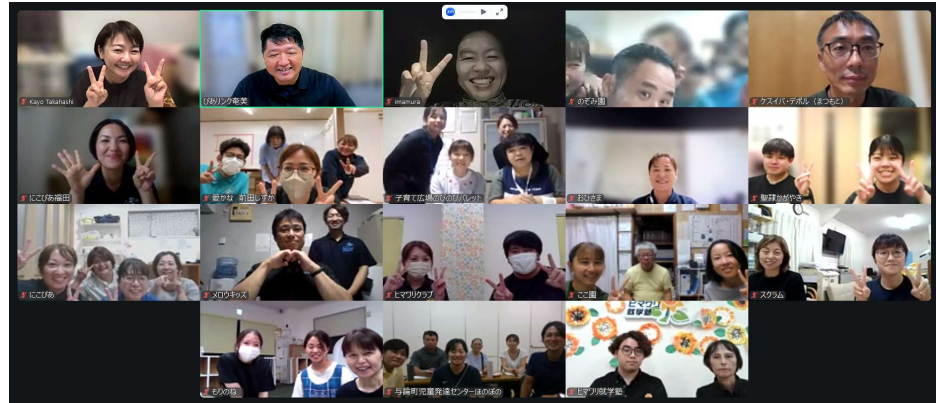
ほのぼの

鹿児島（4）

おひさま、ケスイバ・デボル、のびのびパレット、もりのね

講師/事務局（2）

今村氏、高橋氏（鹿児島大）、福岡（びあリンク奄美）



合計 39 名

1.各事業所自己紹介

2.ミニ研修（別紙資料）

「共生社会を目指して生涯発達を考える①共生社会のかたち」

～支援者による支援から”ともに生活する”地域へ～

鹿児島大学大学院
臨床心理研究科

准教授
高橋 佳代 氏

准教授
今村 智佳子 氏

そだサポ2026年9月
支援の質を高める & 支援の方向性を考える

発達支援における
こどもの意思の尊重・最善の利益を考える

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科
高橋佳代・今村智佳子

今年度のミニ研修

共生社会を目指して生涯発達を考える

6月 共生社会のかたち 「支援する」から「共に生活する」地域へ 世界の先進事例をもとに
自分たちの支援がどこに向かうのか、一緒に考える頭の体操をしてみましょう

9月 子どもの意思決定を支援するコツ

子どもの「意見」「意思」をどう確認するのか？ 誰の「意思」で支援が進んでいるのでしょうか？
またその前提として、子どもの「考える力」「主体性」を育てていくことはどのようなことか考えてみる

12月 地域の中での多職種連携のコツ

子どもの支援はチーム支援、多(他)職種連携がスタンダードになってきました
他の専門性を尊重しながらも、自身の専門性を発揮する話し方、連携の仕方考えます

3.交流会

【1G】

- 愛かな
- ヒマワリ就学塾
- ここ園
- のびのびパレット
- もりのね



【発表：ここ園】

○夏休み明けの子どもの現状と支援の工夫

- ・2学期が始まり、行事多さから、子どもたちに疲れや登校渋りがあったりする。
- ・活動のペースを少し緩やかにし、子どもが活動を選択できるように配慮しているという事業所もあった。

○講義を受けての気づき

- ・研修を受けて、支援者として、先回りや予測をしすぎてしまったり、子どもの意見や思いを受け入れる心の余裕がたりていないという反省も聞かれた。

○保護者や支援者の想いと、子どもの想いのズレ（計画書作成時の想い）

- ・計画作成でも、保護者と子どもの想いのズレを埋められるようなサポートを目指してはいるが、実際の計画書は、大人主体（保護者、支援者）で管理型になりがちだということを改めて、思い返すことができた。

○現場での具体的な悩みや支援の実践例の共有

- ・設定した遊びとは違うことを子どもがやりたがった時、どこまで受け入れるべきか対応や境界線に悩んだ場面も共有された。
- ・おやつ提供で、2種類のおやつを子供自身に選んでもらうようにしたり、バイキング形式で、並べたおやつの中から、子供自身が自分で3つ選ぶ方法をとっているという事業所もあった。自分で選ぶということを意識した取り組みを共有することができ、良い学びになった。

【2G】

- にこびあ
- 聖隷かがやき
- メロウキッズ
- おひさま
- ケスイバ・デボル



【発表：ケスイバ・デボル】

○研修を受けた感想と自己評価

- ・日々の支援が「大人主導（指示的）」になっていないか、改め振り返る機会となった。
- ・日頃から、「子どもの小さなサインを見逃さないように支援できている」という、自分たちの強みや良い実践についても再確認できた。

○言葉づかいと今後の支援への活用

- ・現場でつい「否定的な言葉」が多くなってしまうことにも気づくことができたため、今後の支援で肯定的な関りができるようにしていきたい。

○非言語サインへの気づきと子ども主体の考え

- ・思いを言葉で表出できない子どもの「言葉にならないサイン（表情、行動、しぐさ）」に気づくことの大切さが共有された。
- ・「子どもが主体である」という意識をしっかりと持ち、支援者側の主導にならないように、子どもの目線に立つことで、自分から意見を表出できない子どものサインに気づけることが必要だと感じた。

【3G】

- のぞみ園
- 与論町のぼの
- ヒマワリクラブ
- スクラム



【発表：与論町のぼの】

○日々の支援の工夫とお互いの事業所の取組の紹介

- ・子どもの「これがしたい」「違うことがしたい」と意見が分かれた際に、グループを分けて、それぞれの活動を行う工夫が共有され、参考になった。
- ・お互いの事業所の普段の取り組みを紹介しあった。（就労に向けたアプローチなどについて意見）

○現場として直面している課題について

- ・「保護者に行きなさいと言われていてから来ている」という子どもに対して、どのようにアプローチし、モチベーションを高めていくべきかという悩みも聞かれた。

○個別支援計画への「子どもの声」の反映

- ・計画書に、子どもの生の声（本人の希望や支援方針）をどう反映させるかについて意見交換した。
- ・高学年の子供を対象に、保護者面談の際、子ども本人にも同席してもらったという事例も紹介された。「子どもの願いをどうやったら叶えられるか」を一緒に話し合う姿勢がとても参考になった。